

# 追悼



故 小堀 樹 会員(12期)  
2009年9月30日逝去・78歳  
1991年度東京弁護士会会長  
1998・1999年度日本弁護士連合会会長

## 会員に最も信頼され、慕われた先達

小堀 樹先生を偲んで

会員 本林 徹(15期)

私たちの敬愛する小堀先生が、こんなに突然ご逝去されるとは、今でも信じられない。まさに、巨星墜つの思いを深くするとともに、心の底から寂しさがつのってくる。小堀先生との出会いは、25年前、先生が東弁法友会幹事長を引き受けられ、私が事務総長として補佐をすることになったときであった。以来、何でも話し合える親友として、7年後輩の私に接して下さった。

小堀先生ほど、全国会員から、信頼され、慕われた弁護士はいないだろう。先生は、常に市民の目線に立ち、市民の頼りになる司法を実現するという強い信念を持っておられた。先生の日弁連会長時代は、司法制度改革設計の真っ直中にあった。会長在任中、弁護士の使命、在野精神、そして先見性にあふれる「日弁連司法改革ビジョン」を策定・発表され、司法改革推進の先鞭を付けられるとともに、舵取りの難しい試練の時期を、抜群の指導力と信頼感を持って日弁連をリードされた。

先生のご功績は実に幅広い。弁護士研修の礎を築かれ、日弁連法務研究財団の設立に中心的役割を果たされたほか、法律扶助協会会長として法律扶助制度の拡充に尽くされ、法テラスの設立にも深く関与された。このような献身的努

力により、私たち後輩弁護士や市民がどれだけ恩恵を享受してきたかを思うとき、先生の偉大さを痛感せざるを得ない。

先生は、広い国際的な視野の持ち主でもあり、日中法律家交流協会会長として、長年にわたり、わが国と中国の法律家の「架け橋」役を果たされた。

また、先生は、大変な愛妻家で、弁護士会の大会などによく奥様を同伴され、仲むつまじくご夫婦の旅をエンジョイしておられた。

豊かな見識、すべての人を包み込む心の広さ、教育者としての風格、まさにわが国弁護士の先達というにふさわしい素晴らしい方であった。在野法曹の重鎮として、弁護士の信頼の象徴としてかけがえのない存在であった先生のご逝去は、計り知れない損失である。幸い、先生のご薫陶を受けた多くの後輩弁護士が、今、さまざまな舞台上で活躍している。先生も、「自分が撒いてきた種が芽をふき、花を咲かせはじめた」と、きっと微笑んでおられるのではないかと思う。先生の高い志を引き継ぎ発展させることこそ私たちの責務である。

小堀先生との思い出は尽きない。先生のご冥福を祈るばかりである。

合掌